

# 社会医療法人 稲穂会 天草慈恵病院 が担う役割について

令和 5年 11月 天草慈恵病院

# 1 現状と課題 理念・基本方針

## 【経営理念】

地域の人々に対し予防から予後まで心のかよった包括的医療サービスを科学的かつ適正に行う。

## 【基本方針】

1. 安全性の確保
2. 共生社会の実現
3. 資質の向上
4. 経営基盤の強化

## 【中長期計画】

1. 地域包括ケアシステムの構築
2. 人材の確保と育成
3. 質の向上
4. 経営基盤の安定

# 1 現状と課題 病院概要

■ 経営主体 社会医療法人 稲穂会

■ 許可病床数 120床

【急性期】急性期一般入院料4：20床、  
地域包括ケア入院医療管理料1：22床

【回復期】回復期リハビリテーション病棟入院料3：34床

【慢性期】療養病床入院基本料1：44床

■ 診療科

内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、精神科、小児科、血液透析、眼科、整形外科、リハビリテーション科、耳鼻咽喉科、泌尿器科

■ 従事者 常勤：227名 非常勤：58名 計：285名

医師 常勤8名 非常勤19名、歯科医師非常勤1名、薬剤師3名、診療放射線技師3名、臨床検査技師6名、臨床工学技士2名、管理栄養士4名、栄養士2名、理学療法士14名、作業療法士5名、言語聴覚士2名、看護師52名、准看護師35名、介護福祉士39名、看護補助者33名、MSW 2名、医師事務作業補助者2名、ケアマネージャー 7名、その他 46名

# 1 現状と課題 病院概要

## ■ 関連施設

社会医療法人 稲穂会

入所施設○介護老人保健施設 慈恵苑 60床  
(一般病床：30床、認知症専門棟：30床)

○天草慈恵病院 介護医療院 49床

○住宅型有料老人ホーム和 25床

在宅部門○訪問看護ステーションはまゆう

○訪問看護ステーションはまゆう サテライト河浦

○ヘルパーステーションJCS24

○ケアプランサービスJCS24

○通所リハビリテーション蕩蕩館

社会福祉法人 慈永会

入所施設○重症心身障害児（者）施設 はまゆう療育園170床  
(一般病床：60床、療養病床：110床)

○養護老人ホーム寿康園 50床

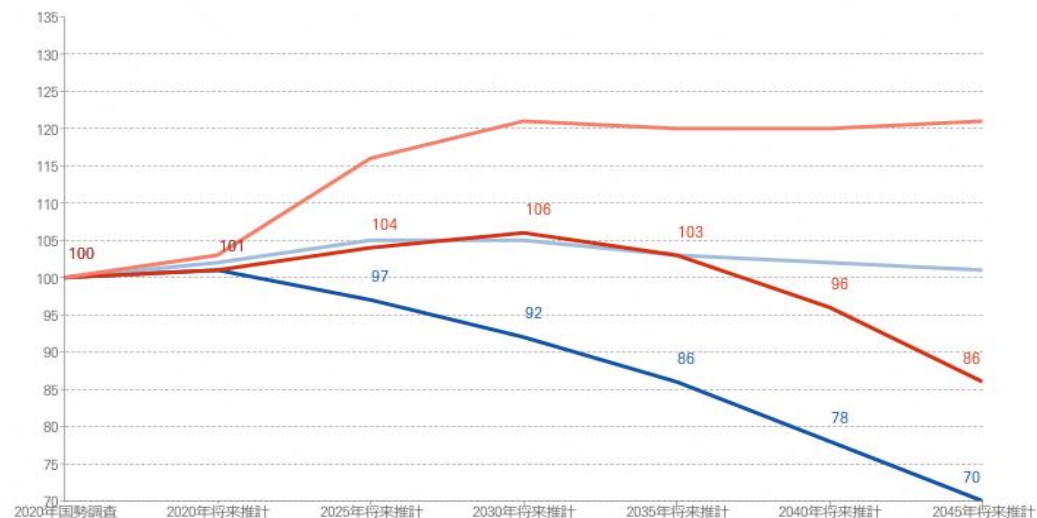
○地域密着型特別養護老人ホーム梧葉苑 20床

# 1 現状と課題 天草地域の人口推移

## 【天草地域の人口推移】

|                   | 2020年   | 2025年  | 2030年  | 2035年  | 2040年  | 2045年  |
|-------------------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 年少人口（0～14歳）       | 11,869  | 10,215 | 8,733  | 7,480  | 6,473  | 5,597  |
| 生産年齢人口1（15～39歳）   | 17,151  | 14,453 | 12,595 | 10,880 | 9,417  | 8,262  |
| 生産年齢人口2（40～64歳）   | 33,687  | 28,795 | 24,893 | 21,758 | 18,677 | 15,772 |
| 高齢者人口（65歳以上）      | 44,759  | 44,151 | 41,948 | 38,981 | 35,763 | 32,190 |
| 後期高齢者人口（75歳以上＝再掲） | 24,572  | 25,441 | 26,385 | 26,172 | 24,368 | 21,705 |
| 総人口               | 107,466 | 97,614 | 88,169 | 79,099 | 70,330 | 61,821 |

## 医療介護需要予測指数（2020年実績＝100）



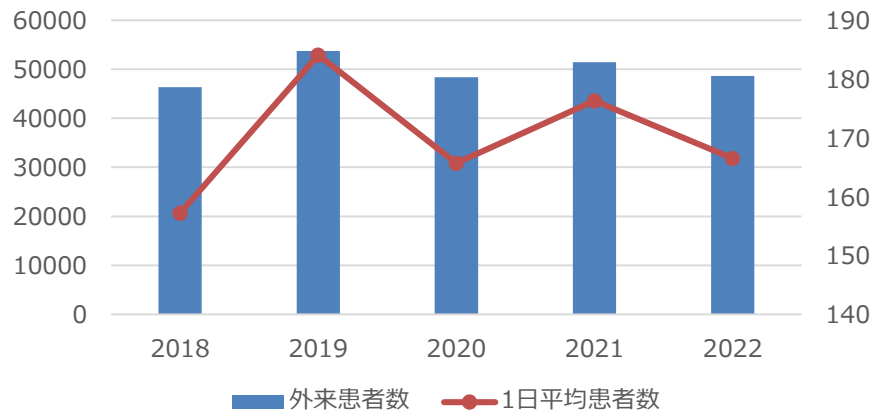
- 医療：天草医療圏
- 医療：全国平均
- 介護：天草医療圏
- 介護：全国平均

出典：地域医療情報システム

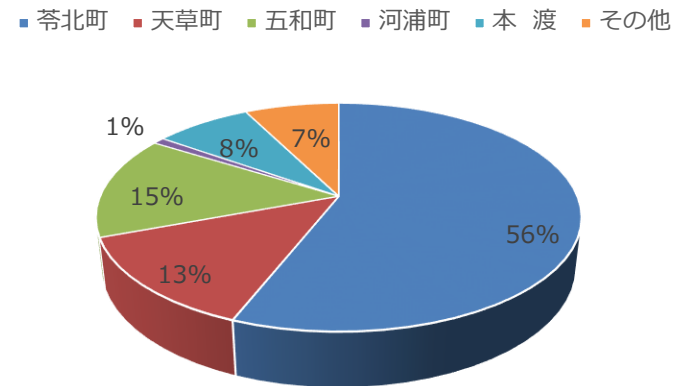
# 1 現状と課題 診療実績

## 【外来】

外来患者数



外来患者地域分布



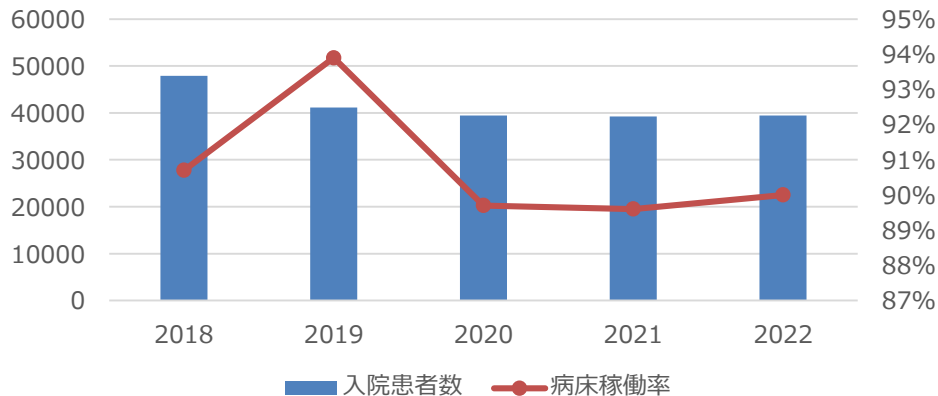
・2020年はCOVID-19の影響もあり、外来患者が一時減少となるも、その後発熱外来等の設置もあり一時的な回復しているが、今後は人口推移からみても減少は続く見込み。

・外来患者の80%以上は苓北町、天草市五和町、天草市天草町を占めている。

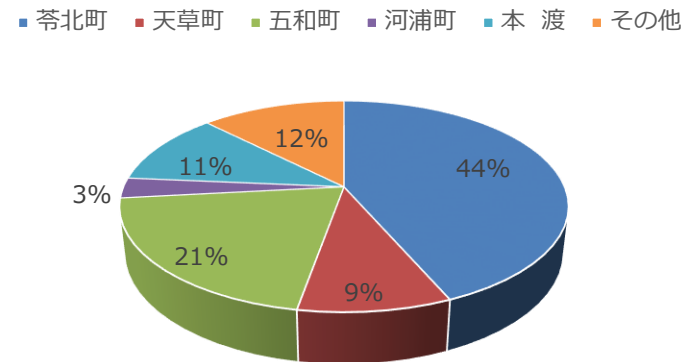
# 1 現状と課題 診療実績

## 【入院】

入院患者数



入院患者地域分布

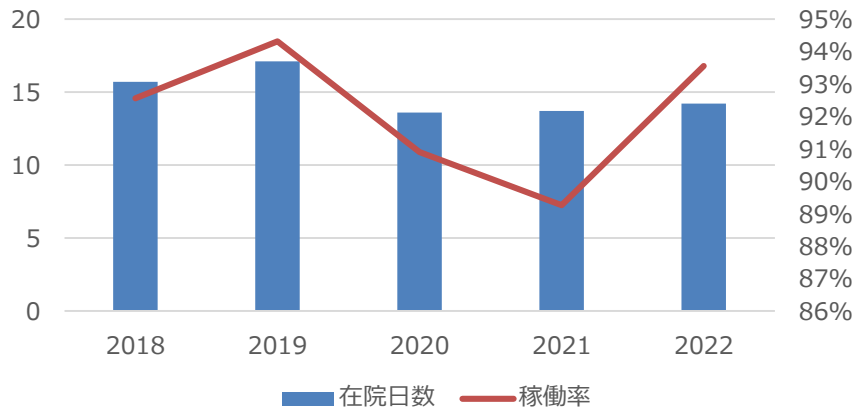


- ・ 2018年10月、療養病棟1病棟を介護医療院へ転換
- ・ 2020年4月～協力医療機関としてCOVID-19疑い患者用ベッドを2床確保
- ・ 現在は90%越えまで稼働は回復してきている
- ・ 入院に関しては回復期リハビリ病棟もあり、その他地域からの入院も多い

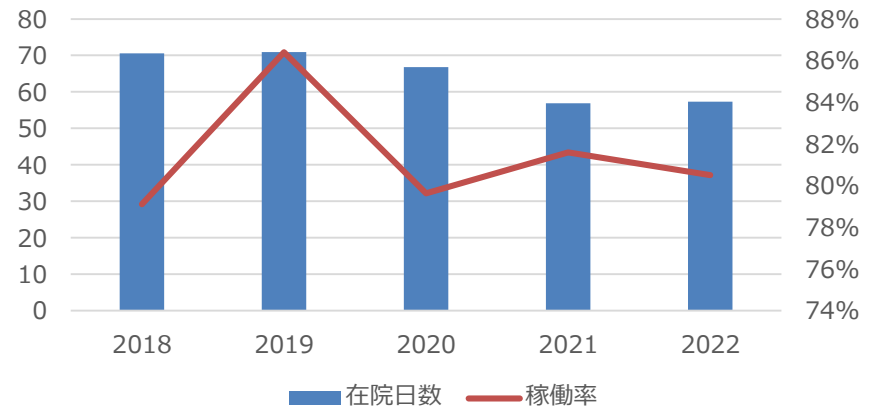
# 1 現状と課題 診療実績

## 【入院】

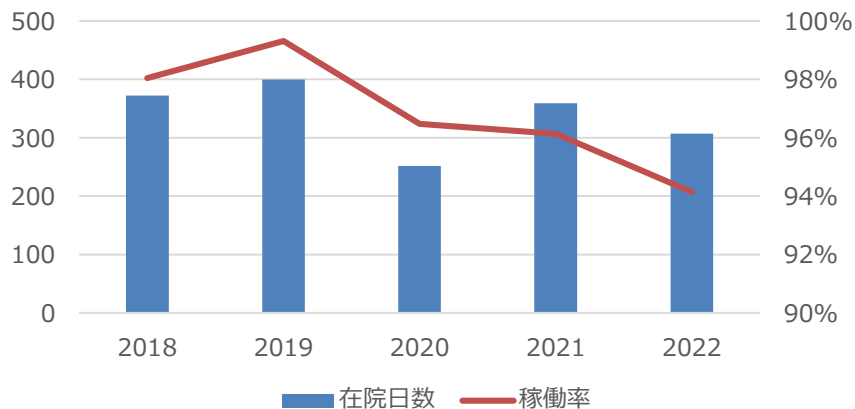
### 一般病棟



### 回復期リハ病棟



### 療養病棟

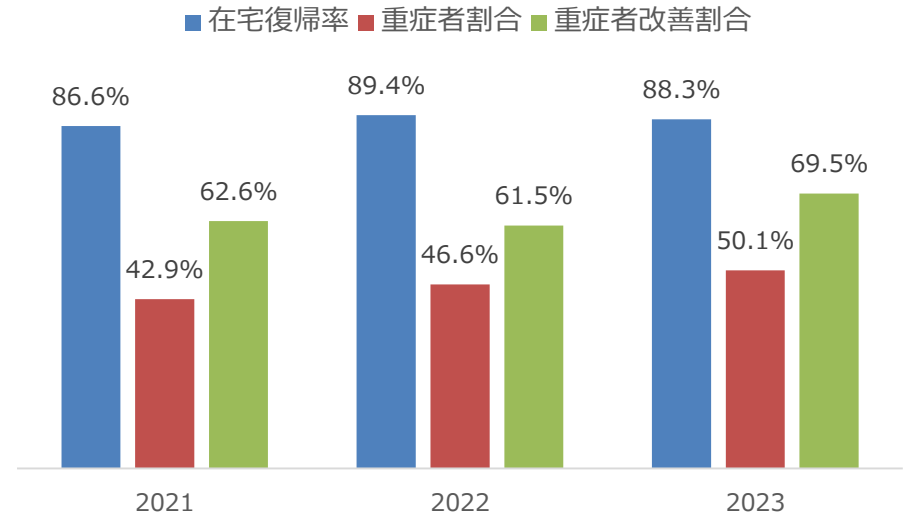
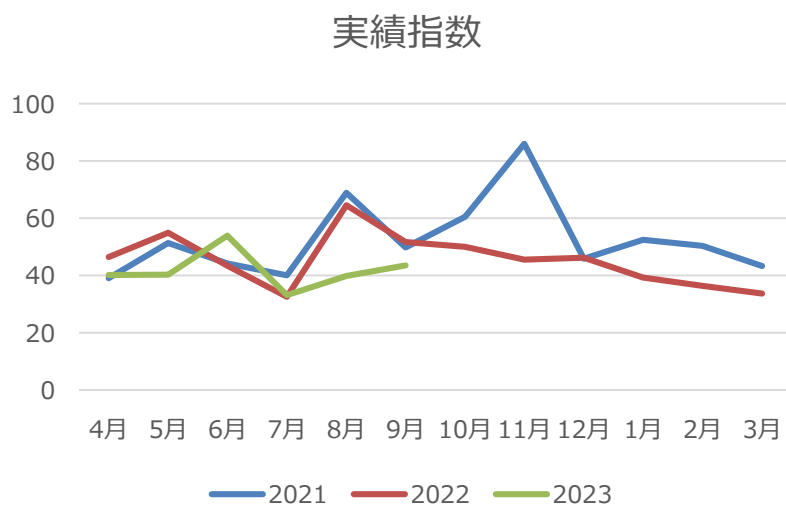


- ・一般病棟については、COVID-19確保病床もあり、稼働率が低下した。
- ・回復期リハ病棟については、稼働80%を維持してきている。
- ・療養病棟については、医療区分2.3が約87%程度で推移しており、常に90%以上を維持できている。



# 1 現状と課題 診療実績

## 【回復期リハビリテーション病棟】



実績指数  
ADLスコアの伸び÷(在院日数÷上限日数) 35以上

在宅復帰率：70%以上 重症者割合：30%以上  
重症者改善割合：30%以上

- ・ 2016年10月開設以降、天草地域における整形及び脳血管疾患の回復期機能を担っている。
- ・ 術後早期からの受入もあり、実績指数や重症者割合も基準より高い数値を維持している。

# 1 現状と課題 5疾病6事業

## 【5疾病】

| 5疾病 | がん | 脳卒中 | 心血管疾患 | 糖尿病 | 精神 |
|-----|----|-----|-------|-----|----|
| 急性期 |    |     |       |     |    |
| 回復期 | ○  | ○   | ○     | ○   |    |
| 維持期 | ○  | ○   | ○     | ○   | ○  |

- がん、脳卒中、心血管疾患  
⇒回復期病床からの在宅復帰支援、療養病棟にて長期看取りも可能
- 糖尿病  
⇒毎週土曜日、九州大学代謝内科より診療協力あり
- 精神科  
⇒毎週木・金曜日にて非常勤Drにて対応  
主な疾病は、認知症、統合失調症、うつ病等

# 1 現状と課題 5疾病6事業

当法人では、救急医療に関する地域医療の貢献と実績が認められ、2012年4月に社会医療法人へと移行し、2021年4月にへき地医療追加認定。2023年7月現在、熊本県内で9つの医療機関が認定を受けている。

## 社会医療法人の認定要件

### 1. 救急医療等の事業に関する要件

#### 【主な要件】

- 救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療又は小児救急医療の医療連携体制を担う医療機関として医療計画に記載されていること
- 救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療又は小児救急医療について、以下の実績を有していること 等

|        |  |                   |
|--------|--|-------------------|
| 救急医療   | 休日・夜間・深夜加算算定件数(初診)／初診料算定件数＝20%以上、又は、夜間休日搬送受入件数＝年間750件以上<br>※精神科救急:年間時間外診療件数＝3年間で人口1万対7.5件  | 3会計年度平均の実績で判断     |
| 災害医療   | 救急医療の基準の8割の実績を有しており、かつ、DMAT(災害派遣医療チーム)を保有し防災訓練に参加したこと  | 直近に終了した会計年度の実績で判断 |
| へき地医療  | 病院の場合は、週1回を超えて巡回診療・医師派遣を行っていること(直近に終了した会計年度の延べ派遣日数(派遣日数を医師数で乗じた日数)が53日以上であること)<br>へき地における診療所の場合は、週4日を超えて診療をおこなっていること(直近に終了した会計年度の診療日が209日以上であること。) | 直近に終了した会計年度の実績で判断 |
| 周産期医療  | ハイリスク分娩管理加算＝年1件以上、かつ、分娩件数＝年500件以上、かつ、母体搬送受入件数＝年10件以上   | 3会計年度平均の実績で判断     |
| 小児救急医療 | 乳幼児休日・夜間・深夜加算算定件数(初診)／乳幼児加算初診料算定件数＝20%以上   | 3会計年度平均の実績で判断     |

### 2. 公的な法人運営に関する要件

#### 【主な要件】

- 役員等についての同族性が排除されていること
- 法人解散時の残余財産が国、地方公共団体又は他の社会医療法人に帰属する(持分がない)こと
- 社会保険診療に係る収入金額が全収入金額の8割を超えること
- 理事等に対する報酬について、支給の基準を定め、公開していること 等

# 1 現状と課題 5疾病6事業

## 【6事業】

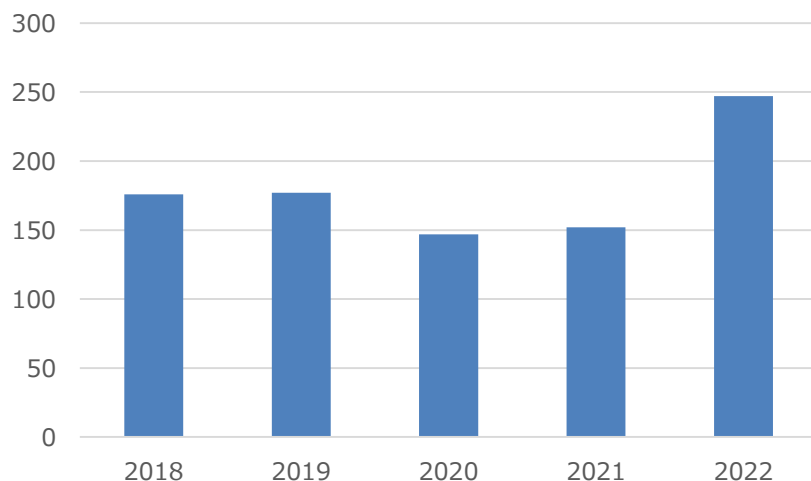
| 6事業 | 救急 | 災害 | へき地 | 新興感染症 | 周産期 | 小児 |
|-----|----|----|-----|-------|-----|----|
| 対応  | ○  |    | ○   | ○     |     | ○  |

- ・へき地医療  
⇒2015年度より、教良木診療所へ医師派遣。  
また、2020年度より、天草市天草町地域での巡回診療開始。
- ・小児医療  
⇒小児科医師による診療あり。入院加療は行っていない。  
2022年度より天草郡市医師会小児休日当番医にも参加。  
(年間10日程度担当)

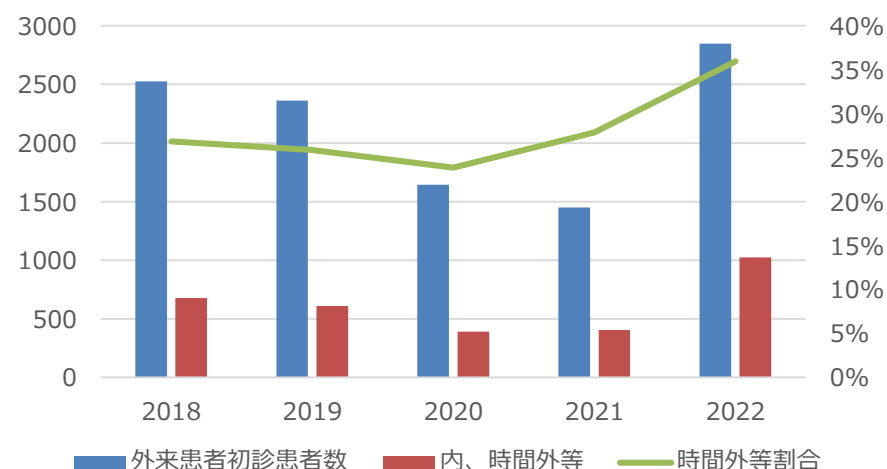
# 1 現状と課題 5疾病6事業

## 【救急】

救急搬入件数



外来患者初診患者数



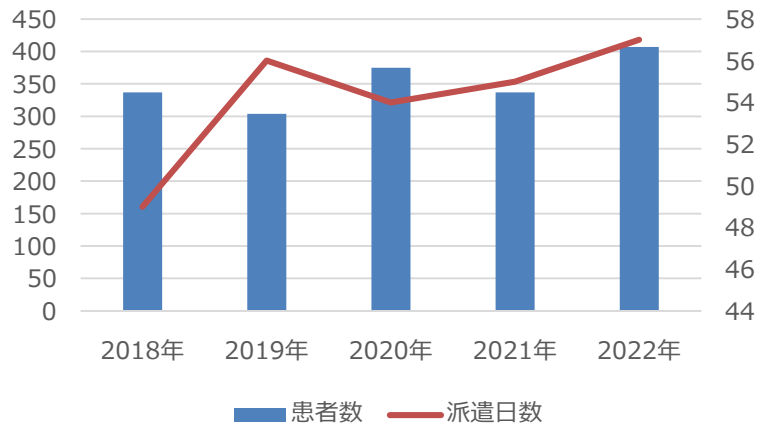
- ・ 救急搬入件数はCOVID-19陽性患者受入もあり、増加してきている。
- ・ 苓北、五和、西天草分署が80%を占める。
- ・ 外来初診患者における、休日・時間外外来受診者の割合は、2022年の小児科休日当番医参加により件数も増加し、それに伴う時間外割合も増加している。

\* 社会医療法人認定要件：時間外等加算割合が20%以上であること（医政発第0331008号より抜粋）

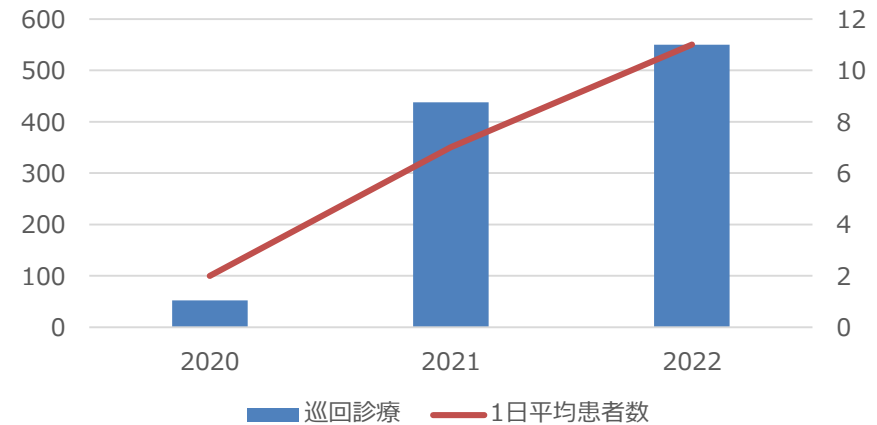
# 1 現状と課題 5疾病6事業

## 【へき地医療】

へき地医療医師派遣



巡回診療



- へき地医療支援病院（上天草総合病院）への医師派遣（1回/週）
- 2020年10月から天草町下田地区、2021年4月から天草町高浜地域へ巡回診療の開始。  
インフルエンザ、コロナワクチン等各種ワクチン接種にも対応  
⇒天草町は無医村地区であり、今後も継続した支援が必要。

# 1 現状と課題 5疾病6事業

## 【新興感染症への対応】

### ○外来診療

- ・2020年10月より診療検査医療機関として診察開始  
延べ5,702名

### ○入院診療

- ・2021年4月より病床確保開始。  
COVID-19陽性患者の受入  
延べ1,256名

中等症Ⅱまでの入院加療が可能。2023年9月まで、2床即応病床として確保。今後は即応病床をなくし、随時入院加療の対応を行う

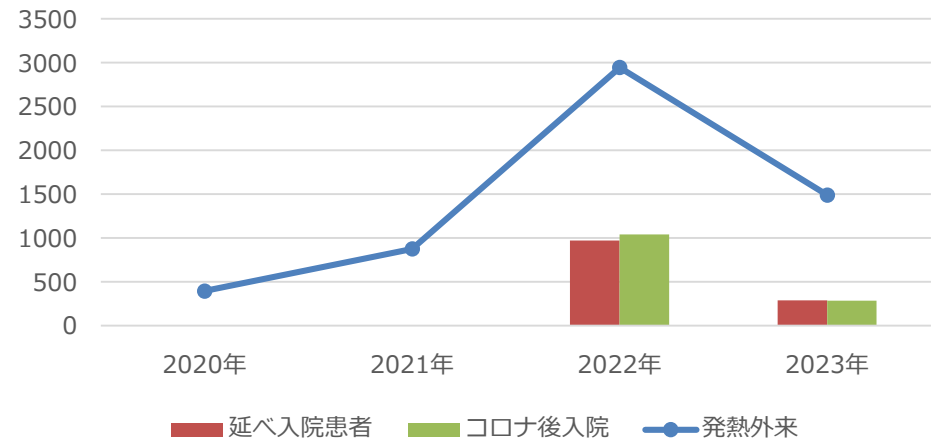
- ・COVID-19陽性後の受入 延べ1,325名

天草中央総合病院はじめ圏内の医療機関より陽性後のリハビリを行い、在宅復帰につなげている

### ○予防活動

- ・ワクチン接種 延べ20,709名

COVID-19対応



2023年9月末現在



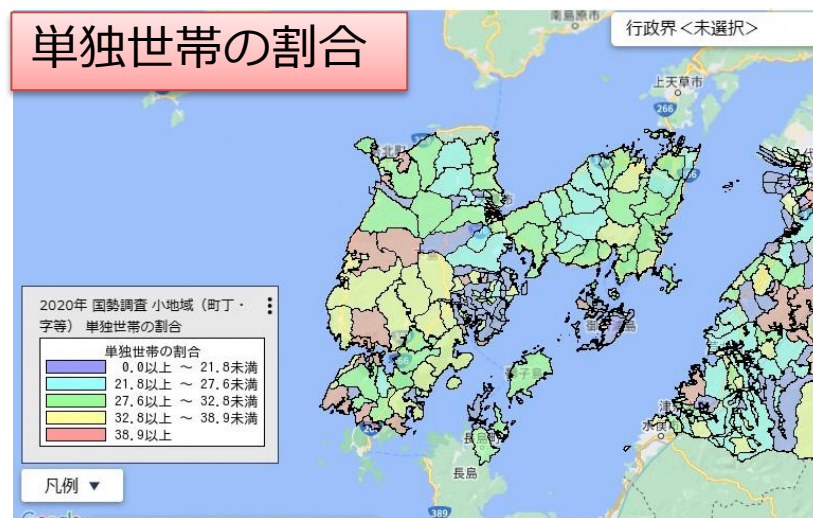
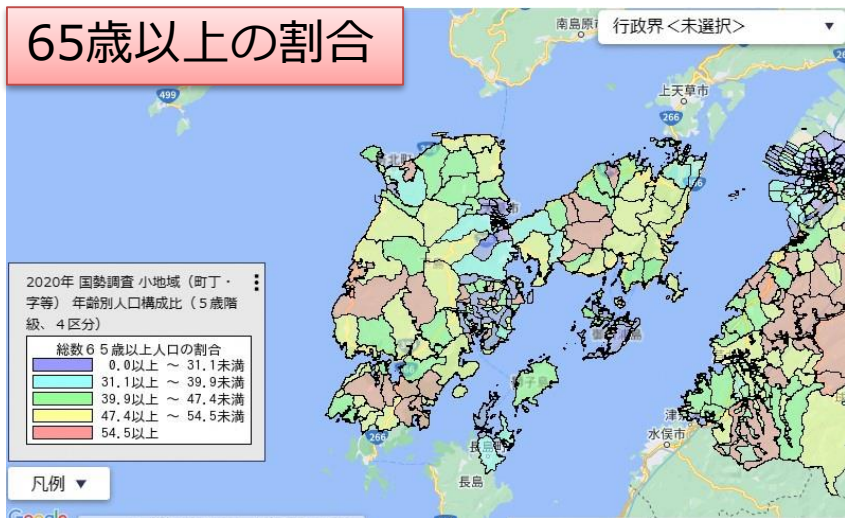
# 1 現状と課題 自施設の課題

## 【自施設の課題】

### ①天草西地域への対応

当院の外来患者の80%を占める地域である、苓北町、天草市五和町、

天草市天草町の高齢化率が非常に高く、単独世帯も多く、医療・介護の必要度も高い。医療・介護難民を造らないようにするのが今後の課題。





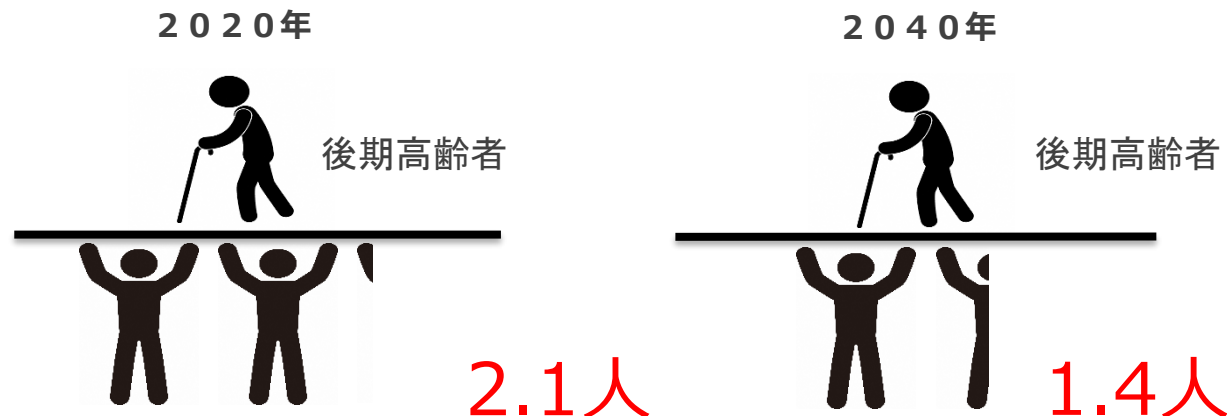
# 1 現状と課題 自施設の課題

## 【自施設の課題】

### ②人材の確保

天草医療圏内の高齢者は増え、働く世代の人口は減少していく。医療・介護の需要は今後もしばらくは増えていくことが予測されており、地域における医療・介護供給体制を保持するために当法人においても、各職種の確保が今後の最重要課題となってくる。

高齢者を支える人数（天草医療圏）



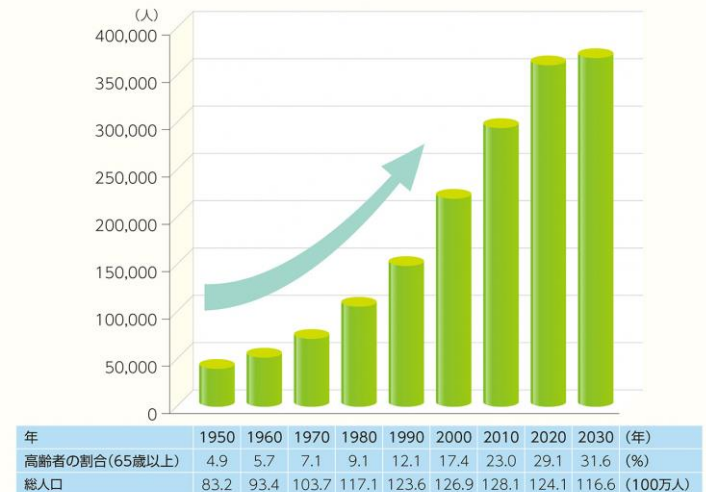
# 1 現状と課題 自施設の課題

## 【自施設の課題】

### ③心大血管疾患リハビリテーションの算定

生活習慣の欧米化に伴う虚血性心疾患（心筋梗塞や狭心症など）の増加や高齢化による高血圧や弁膜症の増加などにより、全国的に心不全の増加がみられる。心不全の罹患率は高齢になればなるほど高くなることから、高齢化の高い天草地域でも罹患率が高いことは容易に予測できる。

このことより2023年度より、常勤の循環器内科医師の採用を行い、診療を行っている。しかし、回復期におけるリハビリである心大血管疾患リハビリテーションの算定要件には経験のあるセラピストが必要であり、研修施設も少ないことから、対応できていないのが現状である。



Shimokawa H et al. Eur J Heart Fail 2015;17:884-892 より改変

出典：公益財団法人日本心臓財団

# 1 現状と課題 自施設の課題

## 【自施設の課題】

### ④オンライン診療の普及

COVID-19の流行に伴い、医療従事者側の感染防止対策の一貫、オンライン診療の実施要件が緩和されこともあり、対面診療に加えオンライン診療を開始した。

若年層中心に一定数の需要はあると考え、システム導入も行った。コロナ禍においても、電話再診は件数も多かったが、P.C.、スマートフォン、タブレット端末を用いたオンライン診療件数は少ないのが現状である。オンライン診療が普及しない原因として、院内での運用の問題なのか？利用者の利便性なのか？オンライン診療後の処方（自宅で完結しない）が問題なのか？。今後の利用普及についての検討が必要である。

## 2 今後の方針 【地域において今後担うべき役割】

### 1、地域における「かかりつけ病院」機能の強化

- 社会医療法人として夜間、休日、時間外を問わず1次、2次救急体制を整え、特に天草西海岸地域の医療提供体制を確保する
- 地域のクリニックや介護施設等の後方支援病院としての役割を強化する
- 日々の診療、健康診断の推進により、生活習慣病からの早期重症化予防に努めるとともに、地域における「かかりつけ病院」として、自ら地域に出向き地域住民への健康支援指導活動にも参与する

## 2 今後の方針 【地域において今後担うべき役割】

### 2、地域包括ケアシステムの達成と在宅医療の推進

- ・在宅療養支援病院として、地域の実情を正確に把握し、全ての方に在宅医療を推進するのではなく、1人1人の状況に合わせ、様々な選択肢を提供できるような施設となる
- ・介護、障がいがあったとしても地域で暮らしていけるよう、これまでの経験を生かし法人内の訪問看護ステーションや訪問介護事業所、またグループ内の養護老人ホームや地域密着型特別養護老人ホームなどの施設を最大限利用し切れ目のない医療・介護提供する
- ・ICT等の技術の発達を利用し、他施設との連携を強化する

## 2 今後の方針 【地域において今後担うべき役割】

### 3、回復期機能の強化

- ・ 医療圏内唯一の回復期リハビリ病棟として、天草全域におけるリハビリ提供体制の機能の強化に努める
- ・ 急性期からより早期からの集中的なリハビリにより、心身機能の改善、回復やADLの向上を図ることが重要視するとともに、加えて維持期、地域や自宅での生活を見据えたリハビリを行い、在宅復帰を目標とするなかで、アウトカムを常に意識する
- ・ 要介護被保険者等にかかるリハビリについては、医療保険から介護保険へ円滑に移行できる連携を図る

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

| 病床機能  | 2017年(平成29年) | 2023年(平成35年) | 2025年(平成37年) |
|-------|--------------|--------------|--------------|
| 高度急性期 |              |              |              |
| 急性期   | 42           | 42           | 42           |
| 回復期   | 34           | 34           | 34           |
| 慢性期   | 93           | 44           | 44           |
| その他   |              |              |              |
| 合計    | 169          | 120          | 120          |

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その2】

急性期：一般病床(20床)においては、高齢者に多い軽症急性期中心に、「治す」医療を提供する。  
一方、地域包括ケア病床(22床)においては、慢性疾患を抱えながらも、地域で暮らしていけるために、一時的な急性増悪の受け皿機能の役割（サブアキュート）を強化し、高齢者救急にも対応していく。

回復期：QOL向上を目標に、在宅復帰を念頭に置いたアウトカム思考のリハビリテーションの提供を集中的に行う。入院時からのカンファレンスや自宅訪問など、より早期からのスムーズな在宅復帰、在宅復帰後の介護サービスへもつなげていく。また、休日も含め、365日リハビリテーションが可能なようにセラピストを配置し、体制を維持する。



### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その2】

慢性期：医療区分2・3該当患者割合8割以上を維持し、より医療的治療、処置の高い患者の入院継続が可能となる病床として位置付ける。また、がんの末期や難病の受入の強化を行う。生活を主体とした安全・安心の医療提供体制を整備し、生活リハビリテーションにも取り組む。

その他：地域のニーズを鑑み、医療療養病棟49床を2018年10月介護報酬改定により新設された介護医療院へ転換を行い、『医療・介護の必要な方が住み続けられる施設』としてのサービスを提供している。

### 3 具体的な計画

## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【②診療科の見直し】

|       | 現時点<br>(2023年9月時点)  | 2025年     | 理由・方策                                |
|-------|---|-----------|--------------------------------------|
| 維持    | 内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、精神科、小児科、血液透析、眼科、整形外科、リハビリテーション科、耳鼻咽喉科、泌尿器科 | 現在の診療科を維持 | 地域における「かかりつけ医」機能を果たすにあたって必要となる診療科を維持 |
| 新設    |   |           |                                      |
| 廃止    |   |           |                                      |
| 変更・統合 |   |           |                                      |

# 3 具体的な計画

## (2) 数値目標

|        | 現時点(2023年9月時点)                      | 2025年                               |
|--------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| ①病床稼働率 | 急性期：95.1%<br>回復期：88.5%<br>慢性期：97.0% | 急性期：90%以上<br>回復期：85%以上<br>慢性期：92%以上 |
| ②紹介率   | 27%                                 | 現状を維持                               |
| ③逆紹介率  | 16%                                 | 現状を維持                               |

### 3 具体的な計画

#### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

##### 【取組みと課題】

##### ○施設基準を維持するための人材確保

- ・ 看護師、介護スタッフの計画的な採用活動
- ・ 2022年4月より定年60歳から65歳へ延長
- ・ 元気高齢者の雇用
- ・ 外国人看護師・介護士の雇用

(現在EPA看護師2名在籍、技能実習生2名就労予定)

⇒スタッフの年齢もみながら計画的な採用を行いつつ、これまでの経験を活かし、外国人と協働できるような仕組みの整備を行う。

### 3 具体的な計画

#### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

##### 【取組みと課題】

##### ○働き方改革への取組み

- ・ 2022年11月、医師の宿日直許可取得済  
(A水準病院：月100時間、年間960時間未満)
- ・ DXの活用  
(くまもとメディカルネットワークの利用促進、  
オンライン診療、看護師バイタル連携、AI問診の導入  
等)
- ・ 業務改善  
(部署、委員会単位での業務改善の推進)

⇒人材確保が難しい中、現在の業務を見直し、またDXを活用することで解決できることはないか検討を進めている。

### 3 具体的な計画

#### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

##### 【取組みと課題】

##### ○グループ内連携と地域連携

- ・グループ内の社会福祉法人慈永会との連携

(地域密着型特別養護老人ホームや養護老人ホームとの共同調整会議)

- ・苓北町地域包括支援センターとの協働

⇒法人内・グループ内に至っても医療分野と介護分野での壁は未だに存在する。来年度のトリプル改定も視野に入れつつ、地域で効率よく支えていけるシステムづくりが今後の課題

## 4 その他特記事項

- 苓北町メタバーズ連動型エイジテックサービス創出事業への参画
  - ・ 高齢化率が高く、高齢者施設も多い特性の苓北町で、これまで整備済のデジタルインフラを有効活用するため、高齢者に係る課題を、メタバーズを活用したエイジテックによる解決するシステムを構築していく。